



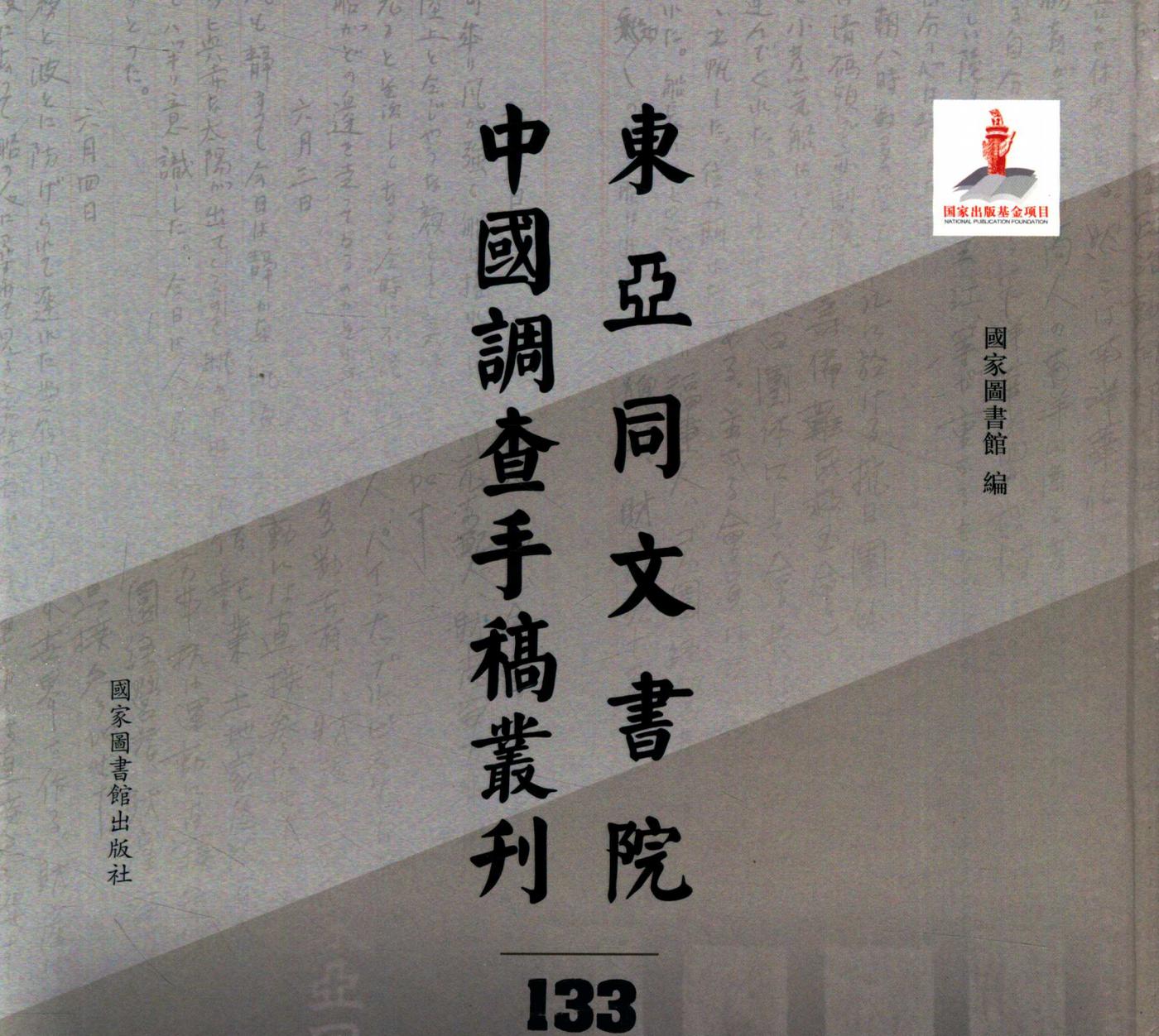
國家圖書館編

# 東亞同文書院

# 中國調查手稿叢刊

133

國家圖書館出版社





國家出版基金項目  
NATIONAL PUBLICATION FOUNDATION

國家圖書館編

東亞同文書院  
中國調查手稿叢刊

---

133

---

國家圖書館出版社

# 第一三三册目錄

昭和五年（一九三〇）調査報告（第二十七期生）

山西省及び天津に於ける紡績業

山西省及天津的紡織業

北村重英

第五十三卷

……………一

南滿農民生活狀況

南滿農民生活狀況

鵜飼藤一郎

第五十四卷

……………一三九

吉林省ノ林業

吉林省的林業

左近允武夫

第五十五卷

……………二六七

中部滿洲ニ於ケル金融市場

中部滿洲的金融市場

浦敏郎

第五十六卷

……………四〇三

東蒙古都邑調查  
東蒙古城市調查

橋本義雄

第五十七卷

.....

四六三

昭和五年度

山西省及ビ天津ニ於ケル紡績業。

第廿七期生

北村重英





を考へ、其れ共 時高は吾々を以て 河内大なりを不能ならしめ、  
山を得て 山内は棉業のみを調査す。 中島村本、山内の  
三人は先下、其の棉業 調査は可なり。 今現に死闘を決定  
し、 自命は 紡績業 調査に當る事とせられり

其れ共 綿工業の如き、 山内南の地の 棉花栽培地として  
既述せられ、 之より 以来は 福城を以て 又其の位置なりや

其方 僻處の 山奥に在り、 近代の新工業に属する 紡績業

の如き 殆んど 見るに 可からず 棉花に 関し、 棉花に 関し、 棉花に 関し、

糸、 綿工業に 関し、 糸は 糸は 糸は 糸は 糸は 糸は 糸は 糸は 糸は 糸は

除く、 山内南の 紡績業に 可なり、 調査は 甚かに 困難な

ざるを 得ず、

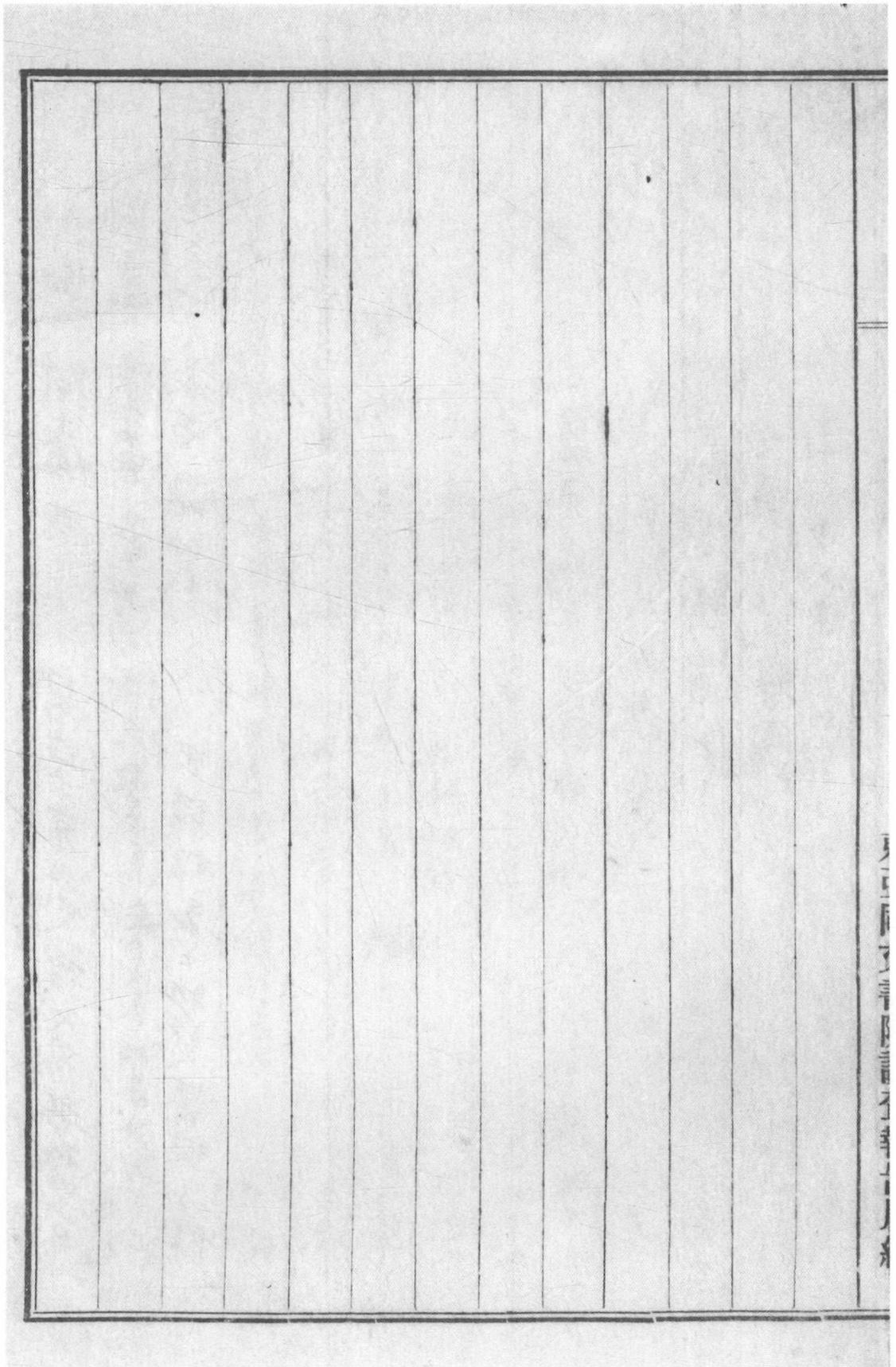
猶も、 調査に 當り 参考と せし、 之を以て 書物を 引考す

は 如し

一、何廉氏……「中国工业化之程及开其物之始。」

一、一九二九—一九三〇……China Year Book.

一、大岛浪次氏……「天津棉花之物资集积及子情。」



山西省及天津口於<sub>レ</sub>紡績業

第一章 最近に於<sub>レ</sub>る支那紡績業の大觀

第二章 山西省に於<sub>レ</sub>る紡績業

第一節 緒論

第二節 山西省に於<sub>レ</sub>る紡績会社

第一款 晉華紡績廠

第二款 大益成紡績廠

第三款 沁縣紡績工場

第三節 結論

第三章 天津に於<sub>レ</sub>る紡績工場

第一節 緒論

五五

五二

五〇

四八

三六

三三

一

東京同文書館編輯部

第二章 天津北門子紡績工場

第一款 沿革

五八

第二款 裕元紡績

五八

第三款 華新

五九

第四款 恒源

六〇

第五款 天津第一商業紡績

六一

第六款 寶成紡績

六二

第七款 裕大紡績

六三

第四章 天津出担棉花

第一节 產地及川路

六六

第一款 羊毛物

六六

第二款 西河棉

六六

第三款 柳河棉

六九

第二章 五筋物

七一

才一目 御筋物 粘棉

七三

才二目 西筋物 粘木棉

七四

才三目 山集棉

七五

才四目 其地の五筋物

七六

第二章 出廻棉毛の内容

八〇

第三章 出廻棉毛の数量

八一

第四章 天津附近に於ける棉毛消費

八二

第五章 天津に於ける棉毛の輸移出入

第一节 棉毛の輸移入

第一款 沿革

九一

第二款 品名及用途

九二

第三款 出廻棉毛の数量と輸移入の干係

九七

第二章 天津に於ける棉花の輸移出入

第一款 天津棉花の主要消費先

九九

第二款 日本回輸出

一〇七

第三款 天津に於ける棉花輸出入業者

一〇八

第三章 支那棉花の地位

第一款 原料の確保

一一一

第二款 美米棉花の確保

第三款 美口の棉花欠乏

一一一

第四款 米口の棉花状況

一一六

第五款 支那棉花の重要性

一二七

(追記)

外口書に現れたる最近支那新棉花の意見

一二一

第五十三卷 山西省及び天津に於ける紡績業

山西省紡績業調査

第一章 最近に於ける支那紡績業大観

綿紡績業に於ける支那の工場利友を採りしるは銅鉄業より  
 進出の採用しるるに等しき今日中国に於ける最大の工場工業に  
 なる棉紡績業に於ける工場利友を採りしるは一八九〇年李鴻章  
 氏の止むに工場を設置ししるるの始なり。該工場は古  
 五ヶ鐘 織機六百架ありしが、幾許も之を大に増し、而して  
 中国政村は兩投資を欲せり。之を民間に擧げ、茲に名を改  
 めて華造紡績工場と稱せしるるにせり。

一八九五年 日支条約(下関条約)簽之後外人は中日商埠に於  
 ける没収権を獲得するに及ぶ。美人経営の怡和 老成我及他  
 人の經營する 瑞記等が工場相繼して没せしめられ 一八九六年に  
 上海、無錫、九江に於ける 瑞記九江工場の没収を見せしめ、其の

山西省紡績業調査

中心地理に在るより比較的重要なものには、天津、大連、  
漢口、青島、上海、漢口、南京、蘇州、南通、大生  
上海の大生等設立せられたる紡績会社并一工場と改められたる、之  
が外人の工場買収の過節と為すべしである。

又、日露戦争以後一麦の産物は有望な綿織物市場と  
なり紡績工場は漸次没せられた。織機は新日に増加し、その需  
要は急増するに至つたのである。

一九〇八年江蘇一省に於て 三三三工場 五八六四七錠 紡機数  
九三〇六台の多きに至り 更に一九一八年に到りては 三三三工場  
九九七、三三八錠 紡機数五、四八台に増加し 其の投資総額は  
三、五〇〇万圓に達せり、如何に棉紡織事業の進歩の速かき  
るか、尙ほ其の詳に物語らざる。

中国紡績工場（一八九一—一九二八）……百位以下省略

又

年次	二物取	新漢鐘取
一九一〇	二	六五・〇〇〇〇
一九一〇	二	四一・〇〇〇〇
一九一〇	七	五五・〇〇〇〇
一九一〇	三	八三・〇〇〇〇
一九一〇	四	一一・〇〇〇〇
一九一〇	九	一四・七八〇〇
一九一〇	四	一・〇〇〇〇
一九一〇	三	三・五五〇〇
一九一〇	一	三・八五〇〇

即ち新漢工物は一九一〇年より一九一三年の八年間は二  
 工物より一三〇工物へと激増振りて示してゐる。一之が現象は  
 注目すべきことにして、其の概増の要因と、思惟する、其の即ち政